

2008年1月24日

各 位

大和ハウス工業株式会社

過年度決算の訂正に伴う「2002アニュアルレポート(日本語版)」訂正について

この度当社は、過年度の決算における事業の種類別セグメント情報の記載を訂正致しましたが、それに伴い、「2002アニュアルレポート(日本語版) Visual (HTML) version」につきましても、下記の通り数値の一部を訂正させていただきます。

なお、今回の訂正につきましては社内取引であるため、当社(連結及び単体)の貸借対照表及び損益計算書等に与える影響はありません。

記

■ 2 グループ業績ハイライト

2002年3月期の下降要因

訂正前	訂正後
観光事業は前期に引き続き営業損失となりましたが、前期比 <u>26.8%</u> の収支改善を達成しています。	観光事業は前期に引き続き営業損失となりましたが、前期比 <u>23.0%</u> の収支改善を達成しています。

■ 7-1 グループの事業領域と各事業の業績

当期の各事業の状況——当期の業績

	営業利益(業績)		営業利益(増減率)	
	訂正前	訂正後	訂正前	訂正後
住宅事業	<u>42,933百万円</u>	<u>43,105百万円</u>	<u>(8.7%)</u>	<u>(8.3%)</u>
商業建築事業	<u>18,351百万円</u>	<u>18,404百万円</u>	<u>13.7%</u>	<u>14.0%</u>
観光事業	<u>△4,355百万円</u>	<u>△4,581百万円</u>	<u>▲26.8%</u>	<u>▲23.0%</u>

■ 7-2 住宅事業全体

住宅事業概要の本文中の表記

訂正前	訂正後
その影響もあり、当グループの住宅事業は、売上高が前期比23.7%増の8,060億3百万円となったものの、営業利益が同 <u>8.7%減</u> の <u>429億3千3百万円</u> にとどまりました。	その影響もあり、当グループの住宅事業は、売上高が前期比23.7%増の8,060億3百万円となったものの、営業利益が同 <u>8.3%減</u> の <u>431億5百万円</u> にとどまりました。

■ 7-3 商業建築事業全体

商業建築事業概要の本文中の表記

訂正前	訂正後
民間の設備投資の冷え込みから市況は厳しいまま推移しましたが、大型物流センターの需要が堅調であり、売上高は、前期比5.7%増の2,607億8千5百万円、営業利益は同13.7%増の183億5千1百万円になりました。	民間の設備投資の冷え込みから市況は厳しいまま推移しましたが、大型物流センターの需要が堅調であり、売上高は、前期比5.7%増の2,607億8千5百万円、営業利益は同14.0%増の184億4百万円になりました。

■ 7-5 観光事業全体

観光建築事業概要の本文中の表記

訂正前	訂正後
ホテル部門は、宿泊者数20.6%増、客室稼働率6.8%増と好調に推移し、売上高は前期比21.8%増の484億9千9百万円、利益についても前期より15億9千4百万円・26.8%の収支改善を達成し、営業損失43億5千5百万円となりました。	ホテル部門は、宿泊者数20.6%増、客室稼働率6.8%増と好調に推移し、売上高は前期比21.8%増の484億9千9百万円、利益についても前期より13億6千9百万円・23.0%の収支改善を達成し、営業損失45億8千1百万円となりました。